
俺と木下姉妹と召喚獣

ルルが効く

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と木下姉妹と召喚獣

【Zコード】

Z6691Z

【作者名】

ルルが効く

【あらすじ】

木下姉妹と同棲している坂井知樹。
彼はどうなつていくのか？

プロローグ（前書き）

序文

プロローグ

「……………」

「ん？」

「早く起きるのじゃ」

「ああ、おはよう秀姉」

寝ぼけながらあこわつをする

「おはようのじや、知樹」

「ああ、今日は振り分け試験の日か」

「すまぬが姉上を起こしてきてくれぬか?」

「ん、「解」

「ン」「ン」

「はこむよ優姉」

入るヒジャージなどが散りかっている本も、止まなくなつよ・

「起きてよ優姉遅刻してしまつよ」

「ん、おはよつ知樹」

「おはよつ、優姉」

さて朝食を作りますか

「朝食は何がいい？優姉・秀姉」

「「なんでもいいわ（のじゅ）」「」

「アリハ・ジヤあサンディッシュにするよ」

上手にできたな

「「「「」」」までした」「」

「やあ、学校に行」つか秀姉

「うむ、行」つかの」

「待ちなさい——」

「遅いのじゅ、姉上」

「はあはあ、あんた達が早いのよ」

「それはともかく秀吉、アンタはFクラスに入らなにわよね？」

「う、うむ、大丈夫なのじゃ……多分」

「まあまあそろ脅すなよ優姉」

「あんたは、黙つてて」

「……はい」

「姉上には勝てぬのぉ」

「じゃあ小手調べね』『権分立』の『司法』『立法』あともつ
つは?」

「む、分からぬのじゃ」

「行政だろ?」

「正解よ、秀吉アンタ勉強した?」

「……してないのじゃ」

「このバカッ」

「次の問題にこづか」

「はあ、じゃあ、That is a dog もれは中学生レ
ベルよ」

「分からないのじゃ……」

「・・・回じぐ」

「あんた達は・・・」

「ほら、もう学校だぜ。俺こいつだから」タツタツタ

「わしもじや」タツタツタ

「大丈夫かしら・・・」

優子の咳きは誰にも聞こえなかつた

プロローグ（後書き）

ありがとうございました

プロローグ（前書き）

序文

プロローグ2

「おはよう坂井、木下姉妹」

「おはようハヤリコサク（なのじや）」、「西村先生」

「うむ、おはよう。これがお前の振り分け試験の結果だ」

「」「「ありがとうございます（なのじや）」」

「あどじいのクラスかな？」

ビニッ

「あ、Aクラスだ」

「私もよ、秀吉は？」

「Aクラスなのじや」

「え、本当！？」

「あれから知樹が作ってくれたノートを見なおしていたのじや」

「三人ともよく頑張ったな、さあ行つて来い。戦争に負けるなよ」

「「「「也———」」

こうして俺と木下姉妹の最高クラスによる生活が始まった。

主人公設定（前書き）

どうぞ

主人公設定

坂井 知樹（さかい ともき） 16歳 男

身長160cm 体重50kg

趣味 ランニング お菓子作り 料理（明久以上）

性格 人見知り 優しい 慎重 おとなしい

好きなこと・もの 秀吉 優子（秀姉 優姉と呼んでいる）

嫌いなこと・もの 秀吉 優子を傷つける人 FFF団 根元

小山 西村以外の教師

得意科目 現代社会 日本史 世界史

苦手科目 英語

召喚獣 魔法使いみたいな格好。周りに7つの玉がありそれぞれ

効果がある。

木下姉妹に深い縁があり何かあつた時はすぐいきれる

原作と異なる点

秀吉は女

秀吉はAクラス

主人公設定（後書き）

ありがとうございました

第一問（前書き）

えいじや

第一問

「 」が A クラス？

普通の教室の 5 倍の大きさはあるぞ・・・

「 とりあえずなかに入ろうか」

ガラッ

「 おっ、久しぶりだな」

「 おはようございます 知樹君」

彼女は佐藤美穂去年、同じクラスだった奴だ。

「 今年も同じクラスになつて嬉しいよ」 ニコ

「 そ、 そうですね／／／」

「？ 痛つ」

「 「ふん」」

なんで一人とも怒つているんだひつへ。

「どうあえず座るか」

「私は隣に座る」

「わしもじや」

「おにねい、席なんかどうでもいいだら」

「 「よくない（のうしゃ）」」

「うですか

ガラッ

そんな感じで喋つていたら先生が来た用だ

「面貌も進級おめでとうございます。私はこの一年△クラスの担任、高橋洋子です。よろしくお願ひします」

そういうと、壁全体を覆つむごとのプラスマティスプレイに名前が表示された。

豪華すぎるだろ、むしろ無駄じやね？

黙くなってきた寝よう

「・・・わなさい

「なんだ？」

「自己紹介よ次でアンタの番」

「坂井知樹だ一年間よろしく

自分の自己紹介を終えそしてまた寝た。

「・・・翔子です。よろしくお願ひします」

起きたら霧島さんが自己紹介をしていた。彼女が学年主席なんだな。同性愛という噂が流れているけど、まあ一途に思つている人がいるからだろな。

自己紹介が終わると

高橋「貴方達は自己紹介していくください」

「試験戦争ですか？」

高橋「はい、F対Dの」

「頑張ってくださいね」

高橋「では行つてきます」

A「馬鹿じやね？新学期早々試験戦争なんて」

A「言えども、まあ勝つのはワガだらうな」

「いや、Dは負けるだろ?」

優子「なんで?」

優姉は疑問に思つたらしく首をかしげる、横で秀姉も頷いている。

「Fクラスには姫路さんが居るからな」

秀吉「なぜわかるのじゃ?」

「彼女はAクラス候補だったからだ。まあ途中退席だろ」

優子「Dクラスの代表は冷静な判断の出来る平賀君よそつ簡単に負ける?たかがFクラスよ」

「甘いよ優姉。いくら冷静にいたつて姫路さんが出てきたら味方が浮き足立つや。後、

坂本君、吉井君が居るから、それに

優子「それ!」

「坂本君は元神童、頭は教師に匹敵するだろ?。吉井君は観察処分者。つまり物理干涉が出来るし、なにより操作技術は学園一だ」

? 「なるほど、詳しいね」

「誰?」

「僕の名前は工藤愛子スリー」「わかった、よろしく」もつ

工藤「詳しいね、もつと教えてよ」

「ああ。それと姫路さんは学年トップクラス。島田美波は数学はBクラス並み。土屋康太は情報力に長け保健体育なら学園一だろう。まあ一人ともほかがFクラス並みだけどな」

秀吉「なぜ去年もクラスが違うのにそんなに詳しいのじゃ?」

「調べておいたからだ。情報力なら土屋君に負けん」

佐藤「坂井君つてすごいね」

「知樹でいいよ」

もうそろそろ飯の時間だな

「飯にするか。はい一人の弁当」

「 「ありがとう（なのじや）」 」「

工藤「坂井君は料理が得意なの？」

「あなた」

秀吉「知樹のお弁当は美味しいのじゃ」

「食べるか？」

工藤「うそ」

俺の弁当から臘焼をつまみ工藤さんの弁当の中に入れる

工藤「パクッ。もぐもぐ。」Jくん。美味しいね」

「ありがとう。やつぱりもういらないといふことよ」

「佐藤さんは？」

佐藤「いただきます」

俺の弁当からハンバーグをつまみ佐藤さんの弁当の中に入れる

佐藤「パクッ。もぐもぐ。『ぐん。美味しい』

「よかつた。あんまり自信はなかつたんだ」

「…………」

「ぱくぱくして皿洗っている

『勝者クラス』

「ほらな？」

優子「信じられない」

「多分設備交換はしないだろ。次は多分Bクラスだな」

工藤「なんで?」

「Dくらいを押さえればBクラスに攻める道になるし、Eクラスの抑制にもなる。Bクラスを抑えればAクラスに脅しを掛けられると、他のクラスの抑制にもなるからな」

優子「なんでAクラスに脅しがくるの?」

「あいつらの最終目標はAクラスだからだ。あとこいつら最高のクラスでも連戦はキツイからだ」

工藤「そこまで考えてるんだね」

「まあな、俺はもうそろそろ帰るかじやあな工藤さん、佐藤さん

秀吉「待つのじや、ワシも帰るのじや

優子「私もよ

そして家に帰つて俺は寝た

第一問（後書き）

ありがとうございました

第一回（前書き）

序文

第一問

「おはよう。 秀姉」

「おはようなのじゃ知樹。 ランニングかの？」

「うん、 今帰つて来たと！」

「優姉は起いす？」

「お願いするのじゃ

「ノンノンシ

「入るよ優姉」

ガチャ

入ると優姉がいた

「え？」

下着姿の

「／＼＼＼＼、ゴメン」

バタン

ビックリしたー

「やつわせな！」めぐら、優姉

「うん、こいわよ許してあげる・・・

「？」

「その・・・見て何と思つた？／＼／＼

「かわいいと思つた／＼／＼

「そ、そ、う、な、ん、だ、／、／、／」

「う」飯出来るから食べよっ――

「ウニ」

まだ顔が熱いにが分かる

「「「いただきまわ」」」

「／／／」チラ

「／／／」チラ

「何かいい事あつたかの？」

秀姉が怒つてゐる

「知樹よ、後でワシの部屋に来るのじや」

「分かつた」

「「「「」」」」」」」」

「ン」「ン

「入るよ秀姉」

ガチャ

がし（秀姉が僕をつかむ音）

ドン（秀姉が僕を押し倒す音）

か、顔が近い

「／／／」

「なんでワシの顔を見ないのかの？」

「姉上だけあるこのじや」

そうこうと秀姉は服を脱ぎ始めた

「や、止めてよ秀姉／＼／＼

バタン

「もう行かないと学校に遅刻するわよ・・・な、何やつてこるの
よ秀吉ーー。」

「俺は学校にこいつと

「ワシも行くのじや

「おはようみんな

佐藤「おまよーいざれこまつ」

工藤「おまよー。今田もイチャイチャしてね」

優・秀「イチャイチャなんかしてないわよ（のじや）――」

「そりだぞ。秀姉や優姉が俺なんかとつひとつ詫なごだら」

優・秀「ハア……」

「？」

工藤「鈍感だね」

佐藤「そりですね」

高橋「今日も試合戦争のため白面です」

「B対Fか」

B 「すいませ～ん、坂井くんはいますか？」

「俺だが、何のようだ」

B 「ちょっと来てもらつてもいいですか？」

「？ああ

「何の用だ？」

？「少し寝てゐる

ドカッ

「うう

バタン

そして俺は気を失った

「・・・い」「・・・い

「ん・・・」ムク

「痛つ」

「動くな」

「誰だ?」

「西村だ。なぜお前は倒れてたんだ?」

「Bクラスの奴に呼び出され、後ろから殴られたんだ」

「今田は遅いから帰れ」

「はい。木下姉妹は?」

「先に帰らせた。大島先生の付き添いのもとだ」

「ありがとうございます」

そして家に帰り眠つた

第一問（後書き）

ありがとうございました

第二回（前書き）

えいじ

第三問

「おはよう秀姉、優姉」

ガシ

「心配したのじや」

「本當よ」

「めんねもう、大丈夫」

「うああああん」「

ギュウ

「めんね」

「グスン、もっと強くして欲しいのじや」

ギュウ

ナデナデ

「はふう」「

「 もし、『 飯』しようか？」

「 「 「 いただきまゅ」 」 」

「 「 「 『 うわいわまでした』 」 」

そのあと二人で学校に行つた

そしてみんなに心配された

そして血腫していると（F対Bの試合戦争のため）

ガラツ

「我ら、CクラスはAクラスに試召戦争を申し込みます」

来たな

「・・・受ける。開戦は午後から」

「いいわ、覚悟しておきなさい」

バタンッ

「開戦は午後か、指揮は俺が執つていい?」

「・・・構わない」

「ありがとう、それじゃあ指揮は俺が執ることのなつたみんなよ
ろしく」

「同『おひ――』」

「それじゃあ、早速部隊に分けるぞ」

力チカチ

・先行部隊 隊長 久保
副隊長 工藤

人数 15人

・中堅部隊 隊長 木下優子
副隊長 木下秀吉

人数 15人

・遊撃部隊 隊長 佐藤

人数 9人

・本隊 隊長 霧島
人数 10人

「こんなもんか」

霧島「・・・貴方は？」

「俺は突撃する。先行部隊より先にな」

工藤「一人で大丈夫なの？」

「問題ない」

弁当タイム

「ああ、開戦だ！」このクラスの設備を汚るぞ」

一同『おつ！』

ガラッ

「Aクラス坂井知樹 Cクラス五人に数学で申し込む試験召喚」

C 「なめるな試験召喚」サモン

坂井知樹 256点 VS C五人 平均 135点

「喰らえ」

杖から火を出し喰らわせる

「おひおひおひー」

坂井知樹 198点 VS C五人 平均 78点

「とどめ！」

坂井知樹 156点 VS C五人 0点

西村「戦死者は補習――――――――」

『苦勞様です

てゆーかなぜ5人も担げる?

「ふー、終わつた」

工藤「大丈夫?」

「ああ、お前ら気を引き締めるぞ！――！」

A『おうよ！』

意外とノリいいな

久保「後は僕たちにまかせて君は補給試験に行つたらどうだい？」

「わかつた。ここは任せた」

「よし終わった

よし行くか

『勝者Aクラス』

まじかい

『勝者Fクラス』

Fも勝つたか

俺は小さくほほ笑んだ

優子「勝ったわよ」

「ああ、良くやつてくれた」

工藤「代表まで戦つたもんね」

霧島「・・・頑張った」

「みんなよくやつてくれた今日はもう帰つてくれ」

「解散！――！」

第三問（後書き）

ありがとうございました

第四題（前書き）

「ルイ

第四問

ガラツ

「Fクラス代表の坂本雄一だAクラスに試合戦争を申し込みに来た」

やつぱり來たか

メンバーが坂本君、吉井君、姫路さん、島田さん、土屋君だ

「まあ、すわれや

坂本「お前が代表か?」

「違う。おーい代表」

霧島「何?」

「田那が呼んでいる「ボソ

霧島「何の用?」

坂本「Aクラスに一騎打ちを申し込みに来たんだ」

霧島「かまわない」

坂本「じゃ今じこでするか」

霧島「内容は?」

坂本「対戦内容は五対五の一騎打ち。対戦科目はFが三回、Aが一回決められる。でいいか?」

霧島「かまわない」

坂本「交渉成立だな」

高橋「これよりA対Fの一騎打ちを始めます。先鋒の方、前に出てきてください」

「優姉が行つて」

優子「わかつたわ」

島田「ウチが行くわ。数学勝負でお願いします」

得意科目かまあ大丈夫だろ

高橋「承認します」

優子・島田「「試^{サモン}獸召喚」」

Aクラス 木下優子 VS Fクラス 島田美波

数学 396点 204点

勝負は一瞬で決まった

高橋「勝者Aクラス」

まずは一勝

「よく頑張ってくれた」ナデナデ

優子「あ、ありがとう／＼／＼

なんだか向こうの陣地から嫉妬と殺気の視線が突き刺さるが気にしない

Aクラス・・・一勝

Fクラス・・・0勝

第四問（後書き）

ありがとうございました

第五問（前書き）

えりいわ

第五問

高橋「次の人に前に」

坂本「少し待ってくれ。おいAクラスに提案がある次の戦いは二人してくれ」

霧島「・・・かわまない」

高橋「では両クラス一人ずつ出してください」

「佐藤さんと秀姉出て」

佐・秀「わかつたわ（のじゅ）」

佐藤「物理でお願いします」

?「俺たちが出よう」「うん

佐・秀・?・?「「試験^{サモシ}」」「

Aクラス 佐藤美穂・木下秀吉 VS Fクラス 須川亮・横溝浩一

389点 231点

1点

瞬殺だった

高橋「勝者Aクラス」

これで一勝

「二人ともよくやつてくれた」ナデナデ

佐・秀「うん／＼」

高橋「次の人に出てきてください」

工藤「僕が行くよ

「ああ頼んだ」

「・・・俺が行こう」

土屋君か負けたな

高橋「科目は何にします」

土屋「保健体育」

工・土「（・・・）試験召喚サモン」

Aクラス 工藤愛子 VS Fクラス 土屋康太

441点

578点

ザシユ

高橋「勝者Fクラス」

「どんまい、次頑張ろう」ナデナデ

工藤「う、うん／＼」

Aクラス・・・一勝

Fクラス・・・一勝

第五問（後書き）

ありがとうございました

第六問（前書き）

えりいわ

第六問

高橋「次の人、前に出てきてください」

久保「僕が行こう」

「じゃあ頼む」

姫路「私が行きます」

姫路さんか不味いな

久保「総合科目でお願いします」

高橋「承認します」

久・姫「「試獣召喚」
サモン」

Aクラス 久保利光 VS Fクラス
3990点 4409点

勝負は決まっていた

高橋「し、勝者Fクラス」

「どんまい、負ける時もあるわ」

久保「すまない」

これで2対2

高橋「最後の方出てきてください」

坂本「俺だ」

霧島「・・・行つてくる」

坂本「科目は日本史、小学生レベルの問題。それと100点満点の上限ありだ」

集中力と注意力が必要だな

しばらくして

Aクラス 霧島翔子 97点

Fクラス 坂本雄一 53点

高橋「三対一でAクラスの勝利です」

吉井「雄一、なんだあの点数は」

坂本「いかにも俺の実力だ」

吉井「納得行かない」

「じゃあ、俺と勝負するか?」

吉井「いいの?」

「ああ。四対一で来ていいぜ、いい代表?」

霧島「・・・かまわない」

吉井「じゃあ姫路さんと雄一とムツツリーで」

「科目は総合科目でお願いします」

高橋「承認します」

俺・吉・坂・土・姫「「「「試験召喚」」」サモン

Aクラス 坂井知樹 VS Fクラス 坂本雄一 土屋康太
6780点 1280点 980点

Fクラス 姫路瑞希 吉井明久
4100点 756点

A 「学年主席以上じゃねえか」

いくぜ

「いでよ火の精靈』ヒータ』」

「行け！」

火の精靈が土屋君の召喚獣をのみ込む

Aクラス 坂井知樹 VS Fクラス 坂本雄一 土屋康太
6000点 1280点 0点

Fクラス 姫路瑞希 吉井明久
4100点 756点

「いでよ風の精靈』ウイン』」

「行け！！」

風の精靈が坂本君の召喚獣を巻き込む

Aクラス 坂井知樹 VS Fクラス 坂本雄一 土屋康太
5000点 0点 0点

Fクラス 姫路瑞希 吉井明久
4100点 756点

「ここで最後だ！！」

「臨・兵・鬪・者・皆・陣・裂・在・前」

ドコロン

爆風が発生し周りが見えなくなる

そして周りが見えてくると一体の召喚獣が立っている

Aクラス	坂井知樹	VS	Fクラス	坂本雄一	土屋康太
1点			0点	0点	
Fクラス	姫路瑞希		吉井明久		
0点	0点		0点		

Aクラス対Fクラスの試験召喚戦争が終結した

第六問（後書き）

ありがとうございました

第七問（前書き）

試験召喚戦争終結です

第七問

霧島「・・・雄一。私の勝ち」

坂本「・・・殺せ」

霧島「・・・約束」

坂本「用件はなんだ?」

霧島「・・・雄一私と付き合つて」

おー、周りが固まつてる

「おめでとう。早速デートに行つて来い戦後対談はやつておく

霧島「・・・ありがとう」

坂本「た、助けて」

ズルズルズル

あの巨体を運んで行くとは・・・

「西村先生、Fクラスの設備をワソラソク落としてください。それと姫路さん島田さん」

西村「気がついたとはな

島田・姫路「（なに）なんですか？」

「吉井君をいじめないでね。それと鈍感だから頑張って」

島田・姫路「（わかったわ）はい」

西村「では、教室に行くぞ我がFクラス」

あー、どんまい　ｗｗ

さて帰ろうかな

佐・工・秀・優「「「「あの」」」

「ん？なんだ？俺になんか用か？」

佐・工・秀・優「「「私（ワシ）とせき合つてくださこ（せこしこのじゅ）」」」

「え？まじ俺が？冗談だろ」

佐・工・秀・優「「「本気だよ（なのじゅ）」」」

まじかい

「え、選べないよ／／／全員と付き合つたりダメ？」

佐・工・秀・優「「「ここよ（ここのじゅ）」」」

「ありがとう。よろしくね」二二七

試召戦争の勝利そして彼女ができた

俺は幸せ者だな

第七問（後書き）

ありがとうございました

バカテスト（前書き）

どうぞ

バカテスト

問『大化の革新は何年に起きたでしょう』

坂本雄二・坂井知樹の答え「645年」

教師のコメント「正解です」

霧島翔子の答え「625年」

教師のコメント「おやっ霧島さんが不正解なんて珍しいですね」

吉井明久の答え「うなれ！ストライカーシグマ▽」

教師のコメント「後で職員室に来なさい」

問『試験召喚戦争の読み方をひらがなで書きなさい』

吉井明久以外の答え「しけんしょうかんせんそつ」

教師のコメント「正解です」

吉井明久の答え「試験召喚戦争」

教師のコメント「ひらがなでと書いたはずです」

問『That is a dogを訳しなさい』

木下優子の答え「それは一匹の犬です」

教師のコメント「正解です」

坂井知樹の答え「それは伊佐の毒です」

教師のコメント「伊佐とは誰ですか？彼女ですか？どちらも不正解です」

木下優子・木下秀吉・佐藤美穂・工藤愛子の答え「浮氣は許されない（のじや）」

坂井知樹の答え「た、たすけ、ギャ——」

問『女性は（）を迎える』とで第一次性徵期になり、特有の身体つきになる』

霧島翔子の答え「初潮」

教師のコメント「正解です」

吉井明久の答え「明日」

教師のコメント「随分、急な話ですね」

土屋康太・坂井知樹の答え「初潮と呼ばれる、生まれて初めての生理。医学用語では、生理の事を月経、初潮ことを初経という。初潮年齢は体重と密接な関係がありー」

教師のコメント「詳しそぎです」

問 担任の名前を答えなさい

Aクラスの答え「高橋洋子先生」

教師のコメント「正解です」

Fクラスの答え「鉄人」

教師のコメント「西村先生が職員室で待ってるやうです」

バカテスト（後書き）

ありがとうございました

第八問（前書き）

清涼祭の始まりです

第八問

桜の花びらが姿を消し、新緑の葉の芽が吹き始めたこの季節
俺たちの学校文用学園では『清涼祭』の準備が始まりつつある
まあ、文化祭みたいなものだ。

そして我が△クラスと言つと

高橋「では今から当選発表しますね」

坂井知樹・・・厨房兼執事長

久保利光・・・執事副長

木下優子・・・メイド長

霧島翔子・・・厨房副長

木下秀吉・・・メイド副長

工藤愛子・・・宣伝長

佐藤美穂・・・宣伝副長

・・・俺負担多くね？

「待て、おかしくないか？」

工藤「なにが？」

「俺の負担が多くないか？」

佐藤「仕方がないじゃないですか」

優子「執事服も似合ひつし、演技も抜群だし」

秀吉「うむ、演劇部に入つて欲しいへりこじや」

「でもさあ・・・」

久保「決まつたことだし、諦めて頑張るつよ

「そうだなんなんと想い出作りたいしわ」

工・佐・優・秀「／＼／＼

「おし、代表今回も俺が指揮を執つていいか？」

霧島「・・・お願ひ」

「それじゃあ、執事係は俺のところ、メイドは優姉の所、厨房は代表の所、宣伝は愛姉の所にあつまつてくれ」

なんかみんなが彼女になつてから『私たちも 姉と呼んで』と言
われたから、呼んでいる

優子「代表は料理出来るの?」

霧島「・・・(ノクン) 試合戦争が終わつてから坂井に教わつ
ている」

ギリリリリ（坂井が四人から関節技を掛けられている音）

「ぎやああああああああああああ

バタバタ（坂井が暴れる音）

工藤「えいつ」

ムニュ（坂井の顔がやわらかくものが当たる音）

「ふあふあしふえ(はなし)」

工藤「ひやん」

秀・優・佐「工藤（セイ）（工藤さん）ー?」

「ふはあ、助かつた~」

工藤「あははははは

「なんで急に関節技をかけるの！？痛かつたよー。」

優子「だつて、代表に浮氣したから・・・」

「なんで料理を教えただけで浮氣になるの？俺が浮氣なんて絶対にしないのに」

工・優・秀・佐「いめんなさい（なのじや）」

「もうこ ciòよ、やあ始めるか」

楽しい祭りのはじまりだ

第八問（後書き）

ありがとうございました

第九問（前書き）

どうぞ

第九問

我がAクラスの中も喫茶店らしくなつてきたな

明日から頑張らないとな

工藤「ねえ知君」

「なんだ? 愛姉」

工藤「試験召喚大会には出ないの?」

「ああ、あれかどうじょうかな・・・」

工藤「よかつたら僕と出てよ」

秀・優・佐「ちょっと待つた(待つのじや)」

「なんだ?」

秀・優・佐「私たち(ワシル)も一緒に出たい(のじや)」

「んー、そつはいつても一人ペアだろ」

秀吉「団体戦があるのじや」

「団体戦?」

秀吉「うむ、五人一組でトーナメントなのじや。これならみんなで出られるのじや」

「そ、うは言つても……」

工・秀・優・佐「私たち（僕ら）（ワシら）じゃいや（かの）？」
(上田使い + 涙目)

う、上田使いかそれに涙目

「い、嫌じやないよ／＼やわらつか」

工・秀・優・佐「うれしい（のじや）」

ガバツ × 4

「ふぐつ

や、柔らかいモノが

「く、くつつかないでよ。離れて」

そういうと、不服そうな顔をしながら離してくれた

「めんね、今は忙しいんだ」ナデナデ

工・秀・優・佐「／／／／

「？」

なんでみんなは顔が赤いんだろう

「メンバー表を持っていて来る」

工・秀・優・佐「行つてらっしゃーい（なのじや）」

・学園長室-

「ン」

? 「入つてきな」

「失礼します、Aクラスの坂井知樹です。試験召喚大会のメンバー表を持ってきました」

? 「私は藤堂カヲル。御苦労さね、受け取るよ

「シツ」

学園長「? ?」

グチャ（何かを壊す音）

「盗聴器です、おそらく教頭でしょう」

学園長「これは驚いたね」

「それより優勝商品に何があるんですか？」

一事情説明中

「なるほど、つまり生徒を無理矢理結婚させられるのを防ぎたい」ということですか。まあこの学校が有名だし美人揃いだから目をつけた理由も分かりますけど」

学園長「頭の回転が早いさね、さすが『神才』と呼ばれてこる」とはあるさね」

「そんなことはないですよ。それでFクラスの設備向上との取引を受けたんでしょう」

学園長「驚いたね。そこまで見えてるかい。そうだよAクラスに負けたからさね」

「もつと先が見えるんですけどね。では、これで」

バタン

さあ、明日からが楽しみだな

俺は細く笑つた

坂井知樹が呼ばれている二つの名。
『神童』よりも頭がキレているため呼ばれた。
本人は否定している。

『神才』

第九問（後書き）

ありがとうございました

第十問（前書き）

えいじゆ

第十問

—清涼祭当口—

工藤「いよいよだねー」

佐藤「そうですね」

「出来たからみんな味見してくれ」

A「うまいな」

A「ああ、店と変わらないんじゃね？」

A「甘酸っぱいといひもいいわね」

よかつた大好評だ

優子「どひうで代表は？」

「ああ、なんか旦那さんにケーキを持って行くって行ってたぞ」

優子「一途ね」

「味はこんなもんでいいか」

工藤「シュークリームは？」

「ああ、作ってきたぞ！」

工藤「ありがとう。パクッ。モグモグ。おいしいね」

「よかつた、口の周りがクリームでいっぱいだぞ、動くなよ」

工藤
んづ
」

ケリリと取ったのはしゃかせば、おおいへんへん食べよ。

一
ハ
ク
ツ
」

工藤

「どうした？ 熱があるのか？」

(三) 仁政之說

上藤

熱いしゃねが力「又歩か」

工藤
た
力アキハラ

それなりにした

優子一愛子だけするし

秀吉「そうなのじや」

佐藤「私も・・・」

「はいはいもうそろそろ一回戦だから行くぞ」

『それでは一回戦を始めます。皆さん、リラックスして戦ってください』

「みんな、三回戦まで非公開なんだからゆつくりしていこぜ」

『今日は団体戦、個人戦、ダブルスと三つに分かれています、登場してもらいましょう』

相手はEクラスか

『対戦科目は数学です』

俺たち・Eクラス『試験召喚』サモン

Aクラス 坂井知樹 456点

Eクラス モブ1 97

点

8点
木下優子 435点
木下秀吉 354点
VS

モブ2
モブ3 10
モブ4 97点
モブ5 79点
VS

みんな点数が上がってる

E「勝てる訳ないじゃない」

ズシャ

Aクラス 坂井知樹 409点

Eクラス モブ1 0点

木下優子	397点
木下秀吉	320点
工藤愛子	345点
佐藤美穂	330点
モブ5	0点
モブ4	0点
モブ3	0点
モブ2	0点

VS

『Aクラスの勝利です』

まずは一回戦突破だな

第十問（後書き）

ありがとうございました
よければ感想とかください

第十一問（前書き）

スルノ

第十一問

「Aクラス」

「ただいまー」

霧島「・・・ちよつびよかつた。助けて」

「どうしたの?」

霧島「・・・迷惑な客」

「まかして」

? 「一のAは良いよなーのFとは大違いだ

? 「ホントだよな畳は腐つてたし」

教室の真ん中で大声で叫ぶモヒカン頭と坊主頭の先輩

「すいませんお客様。少々声のトーンを落としてくれませんか?」

久保「ほかのお客様の」迷惑になりますので

? 「ああん？ 僕たちは客だぞーー！」

「いくらお客様でもそれは「つるせえ

バシャ（俺の顔に水を掛ける音）

「いつい度胸じやねえか

「すいませんお客様お水のおかわりはいかがでしょうか？」

? 「いらねえよ」

ドカッ（俺が殴られる音）

「ぐふつ。教頭先生助けてください、今殴られました。見てまし
たよね」

そう言つて教頭の方を向く、しかし教頭はそっぽを向いている

「おや？教師たるもののが学園内の暴力を見て見ぬふりですか？」

「うーっと教頭はお金を払つてクラス内から出でていつた。

計算どひつ

「お前ら、覚悟はいいか？」

？・？」「ヒヤ」「」

「しばらくお待ちください」

「一件落着だな。久保、ここでの『山』を場に置いててくれ

久保「わかつた」

パチパチパチ

拍手が起きた

「みなさま、お食事中見苦しい所を見せて、すみませんでした。
今からみなさまに我がクラスの自信作『Aクラススペシャル』をお
くばりします。どうぞご賞味ください。ならびにFクラスの出し物
もよろしくお願ひします」

と言い頭を下げる。

そしてクラスの皆が配るこれでいいかな？

『いい感じかな

』「クラスも行ってみよ!」

秀・優・工・佐『かっこよかったよ(のじや)』

「ありがと!」

さあ稼ぎますか

第十一問（後書き）

ありがとうございました
よければ感想をください

第十一問（前書き）

ルノア

第十一問

アンケートに『協力ください』

問『今あなたが欲しい物は?』

姫路瑞希の答え『クラスメイトと思に出』

教師のコメント『なるほど。いいですね。お密さんが喜ぶような出し物とかもいいですね』

霧島翔子『雄一の心』

工藤愛子・木下秀吉・木下優子・佐藤美穂『知樹「君」との甘い時間』

教師のコメント『坂本君、坂井君。大至急職員室まで来なさい』

問『出し物の際、気をつけていふことは?』

坂井知樹の答え『清潔感や言葉遣い』

教師のコメント『良いですね、売ることを祈っています』

霧島翔子の答え『夫に対する態度』

木下秀吉・木下優子・工藤愛子・佐藤美穂の答え『知樹「君」に対する態度』

教師のコメント『坂本君、坂井君。後で補習です』

坂本・坂井のコメント『なぜだー?』

教師『今から一回戦を始めます。では始め!』

二回戦は、ちつ。英語か

一同『試験召喚』
サモン

Aクラス 坂井知樹1点

木下優子387点

木下秀吉287点

工藤愛子217点

佐藤美穂314点

V S

Dクラス

平賀119点

清水101点

モブ99点

モブ100点

モブ94点

優子「知樹。何その点数?」

「・・・」めん

平賀「坂井を打ち取れ!!!」

まずい!

ズバツ × 5

Aクラス 坂井知樹1点

Dクラス 平賀0点

木下優子 387点

V S

清水 0点

モブ 0点

モブ 0点

木下秀吉 287点

工藤愛子 217点

佐藤美穂 314点

教師『勝者、Aクラス』

「ありがとう。助かったよ」二口

優・秀・工・佐藤「べ、別に助けたわけじゃ、ないんだから（の
じや）／＼／

なぜみんな顔が赤いんだろう？

「Aクラス」

「おー、すごい人の数じやねえか

霧島「・・・大盛況」

さあ、手伝いますか！

そして、手伝い始めてから30分から40分経つた頃

『今から三回戦を始めます』

さあ、行きますか

『えー、Aクラス対相手のクラスが原因不明の食中毒の為、棄権になります。よって勝者、Aクラス！』

「俺、ちょっとトイレにいって来る、先帰つてて」

秀吉「わかつたのじや」

—Aクラス—

久保「大変だよ、坂井君！」

「どうした？いつも冷静沈着なお前が」

久保「ウェイトレスが連れていかれた」

「・・・メンバーは？」

久保「Aクラスの工藤さん・木下優子さん・木下秀吉さん・佐藤さん・代表とFクラスの姫路さん・島田さんの7人だ。Fクラスの吉井君が言つてた」

「わかつた、とりあえずここは任せた」

久保「ああ。悪党をとつちめてくるといい

いい」としてくれるじゃないか、ブチコロス

「おーい、坂本君、吉井君」

今いる場所は文月学園から徒歩5分くらいのカラオケボックスの前

坂本「お、坂井か。待つてたぞ」

吉井「待つて、何か聞こえる」

? 「一さて、どうする? 坂本と——吉井だつたか? そいつらを人質をして呼び出すか?」

? 「待て、吉井ってのは知らないが、坂本は下手に手を出するとマズイ」

? 「坂本つてあの坂本か?」

? 「ああ、しかももう一人いるらしい、そいつは坂本よりヤバいらしい」

? 「じゃあ、来る前にやるか」

? 「 そりだな

優子「あ、あんた達わざとほなしなやこむ」

優姉の怒声が聞こえる

秀吉「 もうじゅ、はなすのじゅ」

続いて秀姉のこえも聞こえる

? 「 つむぎよ」

秀・優「 きやつ」

ガシャン×2

俺の中で何かがキレた

「 す」「 し、行つてへる」

坂本「 ま、待て」

俺は坂本の忠告を無視しカラオケボックス内に入った

「失礼しまーす」

中は7人か

？「なつ、何だお前は！？」

？「こいつがあの『さまよえる死神』ショーカーだ

？「ひとりで勝てると思つなよ

「・・・あげるな」

？「は？なによ？」

「優姉と秀姉には手を上げるなあああ

ドカツ バキッ グシャ

「死ねや」

そう言つて殴ろうとしたが

——殴れなかつた

優子「もつやめて

優子に止められていた

「あ、あ、無事でよかつた

ガシツ

俺は臂を抱きしめた

ガチャ

坂本「もう終わってるじゃねえか」

吉井「ホントだ」

土屋「・・・強い」

「わあ、帰るぞ」

その後いつたん学校に戻り、皆を送つて帰つた

・・・本当に無事でよかつた

第十一問（後書き）

ありがとうございました
出来れば感想をください

第十二回（前書き）

三月

第十二問

誘拐事件から翌日

「おはよう」

佐藤「おはよ知君」

佐藤「おはよひ」

「悪い夢みなかたか？」

佐藤「大丈夫だよ」

みんな芯が強いみたいだな

佐藤「また、誘拐されても助けてくれますもんね」二〇

「それは・・・まあ・・・」

久保「もうそろそろ、準備をしないと間に合わないよ」

「ああ、悪い。やるか」

さあ稼ぎますか

そして少しうると

教師『第四回戦を始めます』

さあ行くか

教師『第四回戦を始めます。始め!』

科目は古典か

一同『試験召喚』

Aクラス

坂井知樹 678点

Bクラス

モブ16

7点

木下優子 354点

モブ15

4点

木下秀吉 310点

モブ14

2点

工藤愛子 332点

モブ17

6点

佐藤美穂 319点

モブ15

4点

B 「な、なんだあの点数！？」

「行くぜ、水の精靈『//レイ』『//イ』

「行け！」

パシュン

Aクラス

坂井知樹 389点

木下優子 354点

モブ0点

木下秀吉 310点

モブ0点

工藤愛子 332点

モブ0点

V S

Bクラス

モブ0点

モブ0点

モブ0点

モブ0点

『勝者Aクラス』

「Aクラス」

「ただいまー」

坂本「よつ、邪魔しに来たぜ」

吉井「綺麗だね」

「用件は何だ」

坂本「ああ、こいつが勉強を教えてくれってこいつくてな」

「こい、勉強を教えてやる」

- 勉強中 -

教師『準決勝を始めます』

坂本「ああ、もうそろそろ行くか」

吉井「勉強教えてくれてありがとう」

「おう、がんばれよ」

さあ、行くか!

教師『準決勝を始めます。はじめ!』

今回は保健体育か

一同『試験召喚』

Aクラス 坂井知樹 693点

木下優子 321点

Cクラス モブ 140点

モブ 13

4点

木下秀吉 300点

VS

モブ12

9点

工藤愛子 501点

VS

モブ12

8点

佐藤美穂 319点

VS

モブ13

9点

「出でよ、
蒼き龍」

バシュウ

Aクラス 坂井知樹 393点

VS

Cクラス

モブ0点

モブ0点

モブ0点

モブ0点

木下優子 321点
木下秀吉 300点
工藤愛子 501点
佐藤美穂 319点

—Aクラス—

「ただいまー」

教師『勝者Aクラス』

久保「ああ、お帰り。悪いが手伝ってくれない? 大盛況で追いついてないんだ」

「ああ分かった」

少しして

教師『これから決勝戦を始めます』

氣を締めていこう!

科目は総合科目か

教師『これから決勝戦を始めます、始め!』

対戦相手は・・・なんだと

一同『試験召喚』
サモン

Aクラス 坂井知樹 7892点

Aクラス
霧島 45

木下優子3890点

坂井知樹 7892点

久保
4

木下秀吉3290点

V
S

モブ2

工藤愛子3360点

毛
3

佐藤美穂 3570点

モテ2

「ぐうえ！臨、兵、鬪、者、皆、陣、列、在、前」

ドコモン

Aクラス 坂井知樹 4892点

00点

木下優子 3890 点

只

木下秀吉 3290点
工藤愛子 3360点
佐藤美穂 3570点

V
S

モブ 0 点

「緑の精霊『グラシージュ』」

Aクラス 坂井知樹0点
Aクラス 霧島100
0点 久保1

木下優子4500点
木下秀吉4500点
工藤愛子4500点
佐藤美穂4500点
モブ0点
モブ0点
モブ0点
VS

「あとは任せた」

霧島さんの召喚獣が美穂姉の腕を切り裂く

Aクラス 坂井知樹0点
Aクラス 霧島980点
000点 久保1

木下秀吉4500点
工藤愛子4500点
佐藤美穂3500点
モブ0点
モブ0点
モブ0点
VS

優姉の召喚獣と秀姉の召喚獣が久保君の召喚獣を左右から斬り付けた

そして美穂姉と愛姉の召喚獣が霧島さんの召喚獣を左右から斬り付けた

Aクラス	坂井知樹	0点	Aクラス	霧島	0点
木下優子	3400点	久保	0点		
木下秀吉	3400点	モブ	0点		
工藤愛子	3100点	モブ	0点		
佐藤美穂	2900点	モブ	0点		

教師『勝者Aクラス』

霧島「・・・おめでとう」

「ありがとうございます」

久保「おめでとう、僕はまだまだ甘いな」

「ありがとうございます。そんなことはないと思つぜ」

学園長『優勝おめでとうさね、これがトロフィーと帝金の腕輪だ

「ありがとうございます」

学園長「そしてアーニアムチケットが四枚さね」

「ありがとうございます。帝金の腕輪の効果は?」

学園長「あんたと召喚獣が合体できるさね。まあその分フィードバックあるから気をつけな」

「はい」

教師『これにて、試験召喚大会団体戦を終了させていただきます。みなさん盛大な拍手でお送りください』

パチパチパチ

坂本君と吉井君も優勝したようだ

-Aクラス-

「ただいまー」

霧島「・・・待つてた、手伝つて

「ああ

教師『これにて清涼祭を終わります、生徒は速やかに撤収させて
ください』

「終わつたー」

秀吉「疲れたのあ

工藤「これから下付けかー、めんどくさいなあ

「ほら、片付けるよ」

優子「そういえば、プレミアムチケットはどうするの？」

佐藤「それは、私も気になりました」

「ああ、それは皆にあげるよ、友達と行つたら？霧島さんは坂本君を誘つらしげけど」

秀・優・工・佐「はあ・・・・

何だろ?・?

「あれは昨日来てた人たちと・・・・坂本君と吉井君?」

秀吉「騒がしいのぉ」

ガラツ

西村「このクラスで何人か来てくれ」

「なんですか？」

西村「屋上の放送機の片付けだ」

「分かりました、俺が行きましょう」

西村「頼む」

「屋上」

なかなか広いじゃねえか

西村「これだ」

そして一人で片付いていると

バンッ

？」「やつてるひせ

? 「ひめ」

西村「貴様ら何をしているんだ?」

? 「逃げるー。」

西村「待たんか!」

やうこつと追いかけていつにしまつた

・・・じつしょ

ドーン

田の前で放送機具がすべて壊れた

ドーン

田の前で放送機具がすべて壊れた

ドーン バラバラ

田の前で教頭室が壊れた

教頭室行ってみよう

- 教頭室 -

教頭「ふふふ、これで終わりだ」

「なにがだ

教頭「いつからいた！？」

「今来たところだ

教頭「すべてが終わるんだ、お前も、周りの奴も」

「・・・

教頭「彼女がいるんだろう？もう終わりだ「黙れ！」ぐふう

ドカツ バキツ

教師「もうやめなさい」

「はあはあ」

西村「ここにいたか探したぞ坂井。Aクラスのどこに行け」

「はい」

「Aクラス」

「ただいまー」

『坂井知樹君、至急職員室に来なさい』

「行つてくる」

タイミング悪すぎると

西村「教頭を殴つたそつじやないか」

「はい、すいません」

西村「これがそれをした罰だ」

「何ですかこれ？」

ビリッ

坂井和樹を『教師処分者』に処す

西村「『教師処分者』とはお前が試験戦争の時、臨時の教師になつてもうつものだ。」

「それだけですか？」

西村「それと、フィールドを展開できる。キーワードは『承認』それとフィードバックもつく」

「分かりました」

西村「では、行つてよし」

「失礼します」

「Aクラス」

「ただいまー」

優・秀・佐・工「おかえり(なのじや)」

「ほかの奴は?」

優子「もう帰つたわよ」

「悪いな送るよ

その後既と帰つた

・・・疲れた

第十三問（後書き）

ありがとうございました
できれば感想ください

メリークリスマス（前書き）

番外編です。
エロいです。

メリークリスマス

今日は日曜日。当然、学校は休みだ

ジリリリリ

目覚ましがなる

しかし動けない・・・なぜ?

誰かに押さえつけられているようだった

目を開けると

四人のサンタがいた

「おはよっ、いい天気だな」

秀・優・佐・上「おはよう（なのじや）」

とりあえず挨拶、うんづん、いい天気

「つてかおかしくねえか？何で俺の部屋に入つて来て「んむ」む

なんか柔らしい物で塞がれた

ちゅうづく

吸われ

チュクチュク

相手の口の中でもてあそばれ

チュル

相手の舌の侵入を許してしまった

? 「ふはあ／＼／＼

「ふはあ、誰？／＼／＼

工藤「僕だよ、気持ちよかつた？／＼／＼

「うん／＼／＼

秀吉「次はワシのじや

「ま、待つて「んむ」む

「せひお待ちください」と

全員「／＼／＼

「何のよがだったんだ？」

優子「クリスマスプレゼントよーーーーー

「ありがとう」「さむ」「ひむく」

い、息ができない

一
ござだへひくお待くへりば

「はあはあ／＼／＼

工藤「ん? 何これ」

△-□

ל' ע' ל

皆の笑顔が怖い

工藤「知君、これはナニカナ?」

サスサス

「つさわる」「カプツ」「ひやん」

耳を噛まれた

秀忠「やうじや、何をやつてこぬのじやーーーーーーーー

「ふはあ。た、たすく「んむ」へむ」

優・佐・秀「ずるこわよ（のじや）（です）ー」

「誰 k 「ムチユ」んん」

俺は・・・無力だ

ソラにしてサンタさんのクリスマスプレゼントは夜まで続いた

まだやつてないからねー?~

メリークリスマス（後書き）

ありがとうございました
できれば感想ください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6691z/>

俺と木下姉妹と召喚獣

2011年12月25日20時48分発行